

令和7年度 全国学力・学習状況調査 江津市の結果概要

I 調査の概要

江津市教育委員会 学校教育課

1 調査の目的

義務教育の機会均等と その水準の維持向上の観点から
①全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証しその改善を図る
②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
③そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

2 調査概要

実施日	令和7年4月14日(月)～17日(木)
対象	市内小学校7校(155名)、中学校4校(134名)が参加
調査 事項	児童生徒…教科調査(国語、算数・数学、理科) / 質問紙調査 学 校…生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
調査 問題	・各教科問題は、前学年までの学習内容から出題 ・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に向けた問題を出題

II 小学校の結果

(1)各教科に関する調査の結果

	平均正答率(%)					
	江津市	島根県	全国	県との差	全国との差	
国語	64	64	66.8	0	-2.8	▲
算数	56	55	58.0	+1.0	-2.0	▲
理科	55	56	57.1	-1.0	-2.1	▲

○：市が全国・県を2ポイント以上、上回るもの
－：市と全国・県の差が2ポイント未満のもの
▲：市が全国・県を2ポイント以上、下回るもの

【小学校・国語】（・概要 ○成果 ●課題 【問題番号】）

- ・平均正答率は、県平均とはほぼ同等であり、全国平均をやや下回っている。
- ・学習指導要領の内容では、「情報の取扱いに関する事項」が全国平均を大きく下回っている。
- 【1三】話すこと・聞くことにおいて、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができている。
- 【1二】情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使うことに課題が見られる。
- 【3三】目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることに課題が見られる。

<分類・区分別集計結果> 学習指導要領の内容	対象 設問数(14)	平均正答率(%)						
		江津市	島根県	全国	江津－島根	江津－全国		
(知識及び技能)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	75.2	76.7	76.9	-1.5	-	-1.7	-
(知識及び技能)情報の扱い方に関する事項	1	45.8	59.0	63.1	-13.3	▲	-17.3	▲
(知識及び技能)我が国の言語文化に関する事項	1	78.7	79.6	81.2	-0.9	-	-2.5	▲
(思考力、判断力、表現力等)話すこと・聞くこと	3	65.8	63.4	66.3	+2.4	○	-0.5	-
(思考力、判断力、表現力等)書くこと	3	67.1	66.2	69.5	+0.9	-	-2.4	▲
(思考力、判断力、表現力等)読むこと	4	54.0	55.5	57.5	-1.5	-	-2.5	▲

【小学校・算数】

- ・平均正答率は全国平均をやや下回り、県平均とはほぼ同等である。
- ・全国的に無回答率の高かった問題の無回答率が、全国・県に比べて低い。
- 【2(3)・3(4)】異分母の分数の加法の計算、角の大きさについての理解ができている。
- 【3(2)(3)】分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉

を用いて記述することや、数直線上で1の目盛りに着目し、分数を単位分数のいくつ分として捉えることに課題が見られる。

<分類・区分別集計結果> 学習指導要領の領域	対象 設問数(16)	平均正答率(%)						
		江津市	島根県	全国	江津—島根		江津—全国	
数と計算	8	59	59.9	62.3	-0.9		-3.3	▲
図形	4	55.8	53.4	56.2	+2.4	○	-0.4	
測定	2	51	52.5	54.8	-1.5		-3.8	▲
変化と関係	3	54.8	54.4	57.5	+0.4		-2.7	▲
データの活用	5	61.3	59.6	62.6	+1.7		-1.3	

2

【小学校・理科】

・平均正答率は全国平均をやや下回り、県平均とはほぼ同等である。

・領域別では、「生命」を柱とする領域における正答率が低い。

○【3(1)・1(3)】ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身についている。また、赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して表現することができている。

●【3(3)(4)】ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、実験の条件を制御した解決の方法を発想し表現することや、レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に新たな問題を見だし表現することに課題が見られる。

<分類・区分別集計結果> 学習指導要領の区分・領域		対象 設問数(17)	平均正答率(%)						
			江津市	島根県	全国	江津—島根		江津—全国	
A 区分	エネルギー	4	45.2	44.4	46.7	+0.8		-1.5	
	粒子	6	50	49.7	51.4	+0.3		-1.4	
B 区分	生命	4	46	51.3	52	-5.3	▲	-6	▲
	地球	6	66.3	65.4	66.7	+0.9		-0.4	

(2)児童生徒質問紙・学校質問紙調査(意識調査)

学校生活・自尊感情・自己有用感に関わること

○「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した児童が全国・県を上回っている。

●「自分にはよいところがあると思う」「学校に行くのが楽しい」と回答した児童が全国・県を下回っている。

学習に関わること

○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」、「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」と回答した児童が全国・県を上回っている。

○「5年生までの学習の中で週3回以上 PC・タブレットなどの ICT 機器を活用した」と回答した児童が全国・県を上回っている。

●学習の中で ICT 機器を活用することで、「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と回答した児童が全国を下回っている。

●「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり生かしたりすることができると思う」と回答した児童が、全国・県を下回っている。

Ⅲ 中学校の結果

(1)教科に関する調査の結果

	平均正答率(%)					
	江津市	島根県	全国	県との差	全国との差	
国語	58	53	54.3	5	○	3.7
数学	48	46	48.3	2	○	-0.3
理科	平均 IRT スコア					
	519	494	503	25		16

○:市が全国・県を2ポイント以上、上回るもの
ー:市と全国・県の差が2ポイント未満のもの
▲:市が全国・県を2ポイント以上、下回るもの

※IRT スコア
児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表すもの

【中学校・国語】

- ・平均正答率は全国・県を上回っている。
- ・領域別では、思考力、判断力、表現力等を含む書くことや読むことが問われたものは平均正答率が全国、県を大きく上回っている。
- ・全国・県に比べて、無回答率が低い。

○【4ー・1三】「読み手の立場に立って、表記を確かめて文章を整えること」、「書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えること」ができています。

●【2三】「自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して話の構成を工夫すること」に課題が見られる。

<分類・区分別集計結果> 学習指導要領の内容	対象 設問数(14)	平均正答率(%)						
		江津市	島根県	全国	江津ー島根	江津ー全国		
(知識及び技能)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	49.6	47.7	48.1	1.9	-	1.5	-
(知識及び技能)情報の扱い方に関する事項	0							
(知識及び技能)我が国の言語文化に関する事項	0							
(思考力、判断力、表現力等)話すこと・聞くこと	4	53.2	51.8	53.2	1.4	-	0	-
(思考力、判断力、表現力等)書くこと	5	59.6	52.1	52.8	7.5	○	6.8	○
(思考力、判断力、表現力等)読むこと	3	65.7	60.8	62.3	4.9	○	3.4	○

【中学校・数学】

- ・平均正答率について、県平均を上回り、全国平均とほとんど同等である。
 - ・領域別で全国平均と比べると、「A 数と式」「B 図形」領域で下回り、「C 関数」「D データの活用」で上回っている。
- 【6(1)・7(1)】「数と式」では、事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において反例をあげることに、「データの活用」の「確率」では、必ず起こる事柄の確率についての理解ができています。

●【1・3・2】素数や多角形の外角の意味の理解、数量を文字を用いた式で表すことに課題が見られる。

<分類・区分別集計結果> 学習指導要領の領域	対象 設問数(16)	平均正答率(%)						
		江津市	島根県	全国	江津ー島根	江津ー全国		
数と式	5	41.3	39.5	43.5	1.8	-	-2.2	▲
図形	3	43.8	44.3	46.5	-0.5	-	-2.7	▲
関数	4	50.5	44.8	48.2	5.7	○	2.3	○
データの活用	4	63.7	58.3	58.6	5.1	○	5.1	○

【中学校・理科】

・平均 IRT スコアは全国・県平均を上回っている。

○【1(6)】科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現することができている。

●【1(1)・5(2)】電熱線で水を温める学習場面における、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能に課題が見られる。また、化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことに課題が見られ、無回答率も高い。

	平均 IRT スコア	標準偏差	パーセンタイル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
江津市	519	115.1	401	437	504	568	669
島根県	494	116.6	361	419	486	559	630
全国	503	124	361	422	495	572	652

(2)児童生徒質問紙・学校質問紙調査(意識調査)

学校生活・自尊感情・自己有用感に関わること

○「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」、「学校に行くのは楽しい」、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した生徒が全国・県を大きく上回っている。

●「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒が全国・県をやや下回っている。

学習に関わること

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した生徒は全国・県を大きく上回っている。

○「国語・数学・理科の勉強が好きである」「国語・数学・理科の勉強内容がよく分かる」と回答した生徒が全国・県を上回っている。

●「1、2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を週3回以上活用した」と回答した生徒が全国を下回っている。

●「1、2年生の時に受けた授業で、各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行った」と回答した生徒が全国・県を下回っている。

IV 今後の対応

全国学力・学習状況調査結果をふまえ、市内小中学校で次のような取組が推進されるよう情報提供や学校訪問等を行い各学校への支援を行う。また、第2期しまねの学力育成推進プランの目標や重点アクションを参考に、学校の実態に応じた取組を計画(授業改善推進プラン)、推進していく。

(1)基礎学力を育成する授業づくり

推進項目	全国学力・学習状況調査における評価参考指標
▷学力調査の成果(強み)や課題(弱み)の結果分析等を踏まえた授業改善と改善状況の検証 ▷「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善 ▷めあてとふりかえりを大切にした授業の推進 ▷学習する意義や必要性などを実感できる場面の設定	▷「国語・算数(数学)の内容はよく分かる」と思う児童生徒の割合 ▷「国語・算数(数学)の勉強は好きだ」と思う児童生徒の割合

(2)学習習慣の基盤を育む授業づくり

推進項目	評価参考指標
▷問題発見・解決能力を育む授業の推進 ▷授業の学びと家庭学習をつなぐ工夫	▷「授業では、児童生徒が自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている」と回答する学校の割合 ▷「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と思う児童生徒の割合

(3)ICT を効果的に活用した授業づくり

推進項目	評価参考指標
▷児童生徒が一人一台端末等を学びに生かすことができる授業づくり ▷教職員のICT活用指導力の向上	▷「学習の中で週3回以上PC・タブレットなどのICT機器を活用した」と回答する児童生徒の割合 <u>学習の中でICT機器を活用することについて</u> ▷「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」と思う児童生徒の割合 ▷「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」と思う児童生徒の割合

(4)多様な子どもの主体的な学びを支える授業づくり

推進項目	評価参考指標
▷一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導の工夫	▷「中学校1・2年生のとき(小学校5年生まで)に受けた授業は、自分にあった考え方・教材・学習時間になっていた」と思う児童生徒の割合